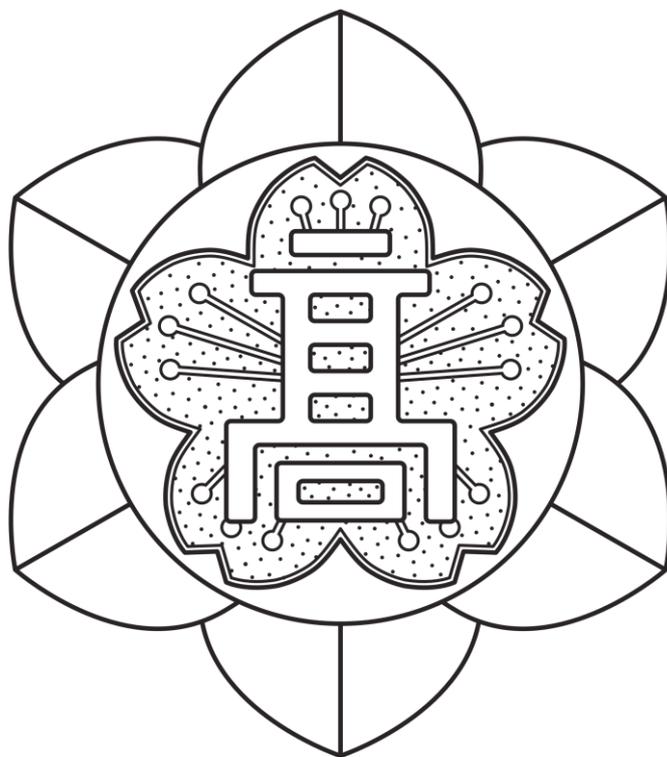


令和7年度
第2学年用シラバス



静岡県立清水東高等学校

定時制の課程

教科	科目	単位数	履修学年
国語	文学国語①	2	2年

使用教科書	副教材等
高等学校 標準文学国語 (第一学習社)	なし

<p>科目の目標</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
--

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	・テスト ・ワークシートの内容
② 思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・テスト ・ワークシートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	・取り組みの観察 ・ワークシートの内容 ・自己評価・相互評価

<p>単元や題材など内容のまとめごとの評価規準</p> <p>① [知識・技能]</p> <p>(1) 言葉の特徴や使い方に関すること</p> <p>ア 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。</p> <p>イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできる。</p> <p>ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。</p> <p>エ 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。</p> <p>(2) 我が国の言語文化に関すること</p> <p>ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。</p> <p>イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>② [思考・判断・表現]</p> <p>A 書くこと</p> <p>(1) 書くことに関すること</p> <p>ア 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。</p>

- イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。
- ウ 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。
- エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。

(2) 書くことに関する言語活動

- ア 自由に発想したり評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評しあっている。
- イ 登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりしている。
- ウ 古典を題材として小説を書くなど、翻案作品を創作している。
- エ グループで同じ題材を書き継いで一つの作品をつくるなど、共同で作品制作に取り組んでいる。

B 読むこと

(1) 読むことに関すること

- ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。
- イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。
- ウ 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。
- エ 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。
- オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。
- カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。
- キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。

(2) 読むことに関する言語活動

- ア 作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりしている。
- イ 作品の内容や形式に対する評価について、評論や解説を参考にしながら、論述したり討論したりしている。
- ウ 小説を、脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換えている。
- エ 演劇や映画の作品と基になった作品とを比較して、批評文や紹介文などをまとめている。
- オ テーマを立てて詩文を集め、アンソロジーを作成して発表し合い、互いに批評している。
- カ 作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり短い論文などにまとめたりしている。

学習計画							
月	単元名	使用教科書項目	評価の観点				③
			①	②			
				A	B	活動	
4	現代の小説（一）	調律師のるみ子さん	(1) イ	ア	ア	B (2) ア	○
		デューク	(1) イ	ア	エ	B (2) ア	○
5	現代の詩	生命は／そこにひとつの席が／食事	(1) ア・ウ	ウ	ウ	A (2) ア B (2) オ	○
6	現代の小説（二）	相棒	(1) イ	イ	エ	B (2) ウ	○
7		ナイン	(2) イ	イ	イ	B (2) ウ	○

9 10	随想（芸術）	花のいざない	(1) エ	イ	オ	B (2) イ	○
		真珠の耳飾りの少女	(1) イ	ア	イ	B (2) イ	○
		(読み比べ) フェルメールの技を読む	(1) エ	ア	ア	B (2) カ	○
11 12	近代の小説（一）	鼻	(1) エ (2) ア	ア	オ	A (2) ウ	○
		こころ	(1) ウ (2) イ	エ	カ	A (2) イ B (2) エ	○
1 2	戦争と文学（一）	バグダッドの靴磨き	(1) イ (2) イ	イ	キ	B (2) カ	○
		わたしが一番きれいだったとき／死んだ男の残したものは／春－イラクの少女ジャミラに	(1) ア・ウ	エ	オ	A (2) エ	○

教科	科目	単位数	履修学年
地理歴史	地理総合	2	2年3修、3年4修

使用教科書	副教材等
高校生の地理総合（帝国書院）	新詳高等地図（帝国書院）

<p>科目の目標</p> <p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>（１）地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>（２）地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>（３）地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
② 思考・判断・表現	・地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力を持ち、考察、構想したことを効果的に説明して議論できる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
③ 主体的に学習に取り組む態度	・地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を持ち、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚している。	・授業への取り組み ・プリント・ノート ・授業内容に取り組む姿勢 ・発表の内容

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	第1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界	第1章 地図や地理情報システムと現代世界	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀やさまざまな図法の地図から現代世界の姿を読み取る技能や、地図や地理情報システム利用する技能を身につけている。 各種の地図にはどのような特徴があるのかや、地図や地理情報システムはどのように利用できるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○
5		第2章 結びつきを深める現代世界	<ul style="list-style-type: none"> 世界を構成する国家の領域の定め方、地図を通して世界の国々の結びつき方、交通・通信・人の移動の特徴を理解している。 国家の領域はどのように定められており、どのような領土問題があるのかや、世界の国々はどのように結びついており、どのような交通、通信、人の移動の特徴があるのかについて、地図を通して多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○
6						
9	第2部 国際理解と国際協力	第1章 生活文化の多様性と国際理解	<ul style="list-style-type: none"> 世界の生活文化の多様性の背景となるものや、世界の生活文化の相互関係を見いだすための、地理的見方・考え方を身につけている。 地形や気候、産業とその発展、歴史、人の移動、他地域との結びつきに着目しながら、世界の生活文化の多様性がどのように形成されてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○
10		第2章 地球的課題と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> 地球的課題が生じている場所や要因、課題同士が相互に関係しあっていることを理解している。 地球的課題がどこで、どのように生じているのかや、解決のためにどのような取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○
11						
12	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	第1章 自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害が生じる場所と要因、日本の自然災害の特徴、生活の中にみられる防災・減災への取り組みを理解している。 どのような自然災害がどのような場所で生じるのかや、日本の自然災害にはどのような特徴があるのか、どのような防災・減災への取り組みがなされているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○
1		第2章 生活圏の調査と地域の展望	<ul style="list-style-type: none"> 生活圏の調査にあたって、仮説の立て方や調査結果の検証の方法、発表のしかたについての技能を身につけている。 事前調査の結果からどのような仮説が立てられるのかや、現地調査の結果をどのように分析・整理するのか、他の事例との比較からどのようなことがいえるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 	○	○	○
2						

教科	科目	単位数	履修学年
地理歴史	歴史総合演習	2	2年3修、3年、4年

使用教科書	副教材等
歴史総合（実教出版）	なし

科目の目標
基礎的・発展的な演習を通して、「歴史総合」で目標・内容に示された資質・能力を育成する。

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
② 思考・判断・表現	・近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を持ち、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。	・テスト ・プリント・ノート ・発表の内容 ・図表の読み取り
③ 主体的に学習に取り組む態度	・近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を持ち、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚することができる。	・授業への取り組み ・プリント・ノート ・授業内容に取り組む姿勢 ・発表の内容

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	第1編 近代化と私たち	第1章 近代化への胎動	・資料から、情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追求したいことなどを主体的に見いだそうとしている。	○	○	○
5		第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」	・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。	○	○	○
6		第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	・19世紀後半の欧米諸国の動向が日本に与えた影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀後半の日本における経済活動の特徴、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
7 9		第4章 帝国主義の時代	・戦争によって人々の気持ちはどのように変化するか、国民意識を高揚させるため為政者は国際関係や戦争をどのように利用するのかという問題を追究し、学習上の課題を解決しようとしている。	○	○	○
10	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	・資料から、情報を読み取ったりまとめたり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることにより、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追求したいことなどを主体的に見いだそうとしている。	○	○	○
11		第6章 経済危機と第二次世界大戦	・第二次世界大戦に着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
12	第3編 グローバル化と私たち	第7章 冷戦と脱植民地化	・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
1		第8章 多極化する世界	・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○	○
2		第9章 グローバル化と現代世界	・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
公民	公共	2	2年

使用教科書	副教材等
公共（東京書籍）	なし

<p>科目の目標</p> <p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>（１）現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>（２）現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>（３）よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト プリントの内容 発表の内容 課題への取り組み
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断でき、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論できる。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト プリントの内容 発表の内容 課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとして、多面的・多角的な考察や深い理解を通し、現代社会に生きる人間としての在り方生き方を自覚している。 公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚している。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み プリントの内容 発表の内容 課題への取り組み 自己評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	第1部 「公共」の とら びら	第1章 公共的な空間をつくる私たち— 社会の中の自己	・青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの 確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の 課題について考察している。	○	○	○
5		第2章 公共的な空間における人間と しての在り方生き方—共に生 きるための倫理	・行為選択の理由付けについて、目的論と義務論の考え 方があることを理解している。 ・功利主義と義務論の考え方を手がかりに、環境にかか わる倫理的課題について考察している。	○	○	○
6		第3章 公共的な空間における基本的 原理—私たちの民主的な社会	・社会における利害の調整のしくみとしての市場の働き と国家の役割、及びそれぞれの課題について理解して いる。 ・社会における意見や利害の調整、意思決定における民 主主義の意義、それらの課題について理解している。	○	○	○
7						
9	第2部 自立した主体 として社会に 参画する私た ち	第1章 民主政治と私たち	・政治の働き、民主主義の具体的な姿について理解する とともに、現在の民主主義の課題について考察してい る。 ・有権者の意思をよりよく反映するという視点から、日 本の選挙制度について考察している。	○	○	○
10		第2章 法の働きと私たち	・道徳を含む社会規範における法の特徴、法の役割、法 の区分とそれぞれの特色について理解している。 ・裁判員として死刑の判断を下すことの是非について、 多面的・多角的に考察している。	○	○	○
11		第3章 経済社会で生きる私たち	・経済活動の意義、経済主体と経済循環、グローバル化 のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象と も関連させながら理解している。 ・少子高齢化の進展のなかで、今後の社会保障制度をど のように展望するか諸外国の例も参考に考察してい る。	○	○	○
12		第4章 私たちの職業生活	・働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働 市場の役割などについて、実際の職業や労働の在り方 とのかかわりも含めて理解している。 ・職業選択の機会の多様化とこれからのキャリア形成の 課題について考察している。	○	○	○
1		第5章 国際社会のなかで生きる私た ち	・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国 際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事 象と関連させながら理解している。 ・平和憲法をもつ日本として、国際平和に向けてどのよ うな姿勢で何をなすべきか、多面的・多角的に考察し ている。	○	○	○
2	第3部 持続可能な社 会づくりに参 画するために	1 探究のイメージをつかも う 2 探究プロセス	・現代の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題 解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察 したりしている。 ・探究の結果や自らの主張を論拠を明確にして説明し たり表現したりしている。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
数学	数学Ⅰ②	3	2年

使用教科書	副教材等
新 高校の数学Ⅰ（数研出版）	なし

<p>科目の目標</p> <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>
--

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト プリントの内容 発表の内容 課題への取り組み
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト プリントの内容 発表の内容 課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業への取り組み プリントの内容 発表の内容 課題への取り組み 自己評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	3章 図形と計量 1節 三角比	直角三角形 三角比 三角比の利用 三角比の相互関係 鈍角の三角比	三平方の定理を利用して直角三角形の辺の長さを求めることができる。	○		
			鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。	○		
5			三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めることができる。	○		
			図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現するとともに、公式を導くことができる。		○	
6	2節 三角形への応用	正弦定理 余弦定理 三角形の面積	正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。	○		
			図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現することができる。		○	
7			図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決し、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察している。		○	
			図形と計量について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。			○
9	4章 集合と命題	集合 命題と集合 必要条件と十分条件	集合と命題に関する基本的な概念を理解している。	○		
			集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。		○	
10			命題の真偽を調べたり、偽である場合には反例を挙げたりすることができる。	○		
			集合および命題の考え方に興味を持ち、それを事象の考察に活用しようとしている。	○		
11	5章 データの分析	データの整理 データの代表値 データの散らばり データの相関 仮説検定の考え方	データの整理方法である度数分布表やヒストグラムを作成できる。	○		
			データの特徴を1つの数値で表すことの利点を理解する。また、それぞれの代表値の特徴を理解し、その値を求めることができる。	○		
12			分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその使い方を理解している。	○		
			データを表やグラフに整理し、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めることができる。	○		
1			データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察している。		○	
			目的に応じて複数のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。		○	
2			具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。	○		
			データの分析について、数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付けている。			○

教科	科目	単位数	履修学年
理科	生物基礎	2	2年

使用教科書	副教材等
新編 生物基礎 (数研出版)	なし

<p>科目の目標</p> <p>生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
--

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・課題への取り組み
② 思考・判断・表現	・観察、実験などを行い、科学的に探究する力が身に付いている。	・テスト ・プリント、レポート、発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。	・取り組みの観察 ・プリント、レポート、発表の内容 ・自己評価、相互評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4		序章 1 探究のプロセス 2 顕微鏡の使い方と顕微鏡観察		○		
	生物の共通性と多様性	第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 1 生物の多様性 2 生物の共通性とその由来 3 生物に共通する構造—細胞	様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見出して理解している。 生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解している。	○	○	
5	生物とエネルギー	第2節 エネルギーと代謝 1 生命活動とエネルギー	生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解している。	○		
		第3節 呼吸と光合成 1 呼吸	光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解している。	○	○	

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの 評価規準	評価の観点		
				①	②	③
6	生物とエネルギー	2 光合成 3 エネルギーの流れ 4 酵素の性質	光合成や呼吸などの代謝と ATP を関連付けて理解している。	○	○	○
	遺伝情報と DNA	第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報と DNA 1 遺伝情報を含む物質—DNA 2 DNA の構造	DNA の構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴を理解している。	○		
		第2節 遺伝情報の複製 1 細胞周期と DNA 2 遺伝情報の複製 3 遺伝情報の分配	塩基の相補性と DNA の複製を関連付けて理解している。	○	○	○
7	遺伝情報とタンパク質の合成	第3節 遺伝情報の発現 1 遺伝情報とタンパク質 2 タンパク質の合成 3 細胞の分化と遺伝情報 4 遺伝子とゲノム	遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見だして理解している。	○	○	○
9	情報の伝達	第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 1 体内での情報伝達 2 神経系による情報の伝達と調節 3 内分泌系による情報の伝達と調節	体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解している。	○	○	
				○	○	○
10	体内環境の維持の仕組み	第2節 体内環境の維持のしくみ 1 体内環境の維持 2 血糖濃度の調節のしくみ 3 血液の循環を維持するしくみ	体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解している。 体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解している。	○	○	
				○	○	○
11	免疫のはたらき	第3節 免疫のはたらき 1 からだを守るしくみ 2 自然免疫 3 適応免疫 4 免疫と健康	免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解している。	○	○	○
12	植生と遷移	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移 1 植生とその成りたち 2 植生の遷移 3 植生の再生	植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解している。	○	○	
		第2節 植生の分布とバイオーム 1 植生とバイオーム 2 世界のバイオーム 3 日本のバイオーム	植生の遷移をバイオームと関連付けて理解している。	○	○	○
1	生態系と生物の多様性	第3節 生態系と生物の多様性 1 生態系の成りたち 2 生態系における種多様性 3 生態系における生物どうしのつながり	生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解している。 生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解している。	○	○	○
				○	○	○
2	生態系のバランスと保全	第4節 生態系のバランスと保全 1 生態系のバランス 2 人間生活と生態系 3 生態系の保全	生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解している。 生態系の保全の重要性を認識している。	○	○	○

教科	科目	単位数	履修学年
理科	科学と人間生活②	2	2年3修、3年、4年

使用教科書	副教材等
科学と人間生活（数研出版）	なし

<p>科目の目標</p> <p>自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。</p>

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについて理解を深めている。 ・科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト ・プリントの内容 ・課題への取り組み
② 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとしている。 ・科学に対する興味・関心を高めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの観察 ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・自己評価、相互評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	科学技術の発展	序編 科学技術の発展 人間生活の歴史	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。	○		
			科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。		○	

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの 評価規準	評価の観点		
				①	②	③
5	衣料と食品	第2章 衣料と食品 ①衣料と繊維 ②天然繊維 ③化学繊維(1) ④化学繊維(2) ⑤食品と栄養素 ⑥炭水化物 ⑦タンパク質 ⑧資質とその他の栄養素	身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて理解している。	○	○	
				○	○	○
7	ヒトの生命現象	第2編 生命の科学 第1章 ヒトの生命現象 ①遺伝情報とDNA ②生命活動を支えるタンパク質 ③血糖濃度とホルモン ④血糖濃度の調節と健康 ⑤免疫とからだの防御 ⑥免疫と健康 ⑦眼の構造とはらたき ⑧光の情報と生命活動	ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解している。	○		
○				○	○	
○				○	○	
○				○		
9						
10						
11	熱の性質とその利用	第2章 熱の性質とその利用 ①温度と熱運動 ②熱容量・比熱 ③熱の伝わり方 ④仕事や電流と熱の発生 ⑤エネルギーの移り変わり ⑥熱エネルギーの利用 ⑦エネルギー資源の利用	熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて理解している。	○	○	
				○	○	○
12						
1	太陽と地球	第4編 宇宙や地球の科学 第1章 太陽と地球 ①日本の四季と気象災害(1) ②日本の四季と気象災害(2) ③大気の大循環 ④地球を出入りするエネルギー ⑤太陽の構造と太陽放射 ⑥天体の運動 ⑦天体の運動と海洋	太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて理解している。	○	○	
				○	○	○
				○	○	○
2	これからの科学と人間生活	終編 これからの科学と人間生活 課題研究の進め方 課題研究	これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めることができる。 これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現することができる。	○		
					○	

教科	科目	単位数	履修学年
理科	化学基礎	2	2年3修、3年、4年

使用教科書	副教材等
新編化学基礎（東京書籍）	なし

<p>科目の目標</p> <p>物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。</p>

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・テスト ・プリントの内容 ・課題への取り組み
② 思考・判断・表現	・観察、実験などを行い、科学的に探究する力が身に付いている。	・テスト ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・課題への取り組み
③ 主体的に学習に取り組む態度	・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度が身に付いている。	・取り組みの観察 ・プリント、レポートの内容 ・発表の内容 ・自己評価、相互評価

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	化学の特徴	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か	日常生活や社会を支える身近な物質の性質を調べる活動を通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解している。	○		
	5	物質の分離と精製	2章 物質の成分 1節 物質の成分	物質の分離や精製の実験を行い、実験における基本操作と物質を探究する方法が身に付いている。	○	
単体と化合物		2節 物質の構成元素	元素を確認する実験などを行い、単体、化合物について理解している。	○	○	○
熱運動と物質の三態		3節 物質の三態	粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解している。	○	○	

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの 評価規準	評価の観点			
				①	②	③	
6	原子の構造	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表 1節 原子の構造	原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解している。	○			
		7	電子配置と周期表	2節 電子配置と周期表	元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解している。	○	○
9	イオンとイオン結合	2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	イオンの生成を電子配置と関連付けて理解している。	○	○		
		分子と共有結合	2節 分子と共有結合	共有結合を電子配置と関連付けて理解している。	○	○	○
		金属と金属結合	3節 金属と金属結合	金属結合及び金属の性質を理解している。	○	○	
10		4節 化学結合と物質の分類	イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解している。 分子からなる物質の性質を理解している。	○	○	○	
		11	物質質量	3編 物質の変化 1章 物質質量と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質質量 3節 溶液の濃度	物質質量と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解している。	○	○
12	1	化学反応式	4節 化学反応の表し方 5節 化学反応式の表す量的関係	化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解している。	○	○	○
2		酸と塩基と中和	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH 3節 中和反応と塩の生成 4節 中和滴定	酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質及び、中和反応に関与する物質の量的関係を理解している。	○		
	酸化と還元	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤 3節 金属の酸化還元反応 4節 酸化還元反応の応用	酸化と還元が電子の授受によることを理解している。	○			
				○	○	○	
	化学が拓く世界	終章 化学が拓く世界	化学基礎で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解している。	○			

教科	科目	単位数	履修学年
保健体育	体育	2	2年、3年、4年

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館）	なし

<p>科目の目標</p> <p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>（1）運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>（2）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>（3）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
--

評価の観点とその趣旨		評価方法
① 知識・技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	運動の知識・技能の点検、確認、分析（ルールの確認テスト、リーグ戦等の試合、学習プリント・ノート等）
② 思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	記述の点検、確認、分析（学習プリント、グループワーク等）
③ 主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	行動の観察、確認（グループ活動及び集団行動の姿勢、安全への意識、授業への取組状況（出席等））

学習計画						
月	単元名	学習内容・活動等	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	体づくり運動	体ほぐしの運動 （集団行動、体ほぐしの運動 新体力テストに向けた 補強運動を含む）	定期的・計画的に運動を続けることは、心と体の健康や体力の保持増進につながることを理解している。 ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。	○		
					○	

			体づくり運動の学習に自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方	運動やスポーツの技能は、体力と相互に関連しており、技能は、身長や体重などの体格や巧みさなどの体力との関連で発揮されることを理解している。 技能には、二つの型の技能があることを理解し、選択したスポーツの効果的な学習の仕方について、他者に伝えることができる。	○	○	
	陸上競技	短距離走・長距離走・投げる・跳ぶ（体力測定）	自己能力に応じた目標記録や課題を定めている。 練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、主体的に行動している。	○	○	○
5	球技	サッカー バレーボール バスケットボール アルティメット	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
6		卓球 バドミントン ソフトテニス (から1種目選択)	自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて自己の考えたことを他者に伝えている。 フェアなプレイを大切にして、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。		○	○
7	体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画	実生活で運動を継続するには、行いやすいこと、無理のない計画であることなどが大切であることを理解している。 体力の程度や性別等の違いに配慮して、仲間とともに体づくり運動を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見つけている。 仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとしている。	○		○
9	陸上競技	短距離走・長距離走・投げる・跳ぶ（体力測定）	自己能力に応じた目標記録や課題を定めている。(記録の向上) 練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、主体的に行動している。	○	○	○
10	体育理論	生涯スポーツ概論	豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	○		○
11	球技	サッカー バレーボール バスケットボール アルティメット	球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
12		卓球 バドミントン ソフトテニス (から2種目選択)	自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて自己の考えたことを他者に伝えている。 練習、試合の企画や運営の仕方について理解し、健康・安全に気を配りながら、主体的に行動している。		○	○
1				○		○
2				○		○

教科	科目	単位数	履修学年
保健体育	保健②	1	2年

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館）	なし

<p>科目の目標</p> <p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨		評価方法
① 知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	運動の知識・技能の点検、確認、分析（定期テスト、小テスト、学習プリント・ノート等）
② 思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	記述の点検、確認、分析（学習プリント、定期テスト、グループワーク等）
③ 主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	行動の観察、確認（グループ活動、提出物及び授業への取組状況（出席等））

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	生涯を通じる健康	1. ライフステージと健康 2. 思春期と健康	各ライフステージにおける健康課題について理解している。 思春期に心身に起こる様々な変化と健康、生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理・環境づくりが関わっていることについて理解している。	○		○

5		3. 性意識と性行動の選択 4. 妊娠・出産と健康	妊娠出産のメカニズムと意味について理解している。			
6		5. 避妊法と人工妊娠中絶 6. 結婚生活と健康	避妊と避妊法、人工妊娠中絶の意味を理解している。 結婚生活意義と考え方と健康について理解している。	○	○	
7		7. 中高年期の健康	中高年期に起こりうる人それぞれの心身の健康状態と社会的取り組みについて理解している。			
8		8. 働くことと健康	働き方とともに変化する健康問題と労働災害の防止には、作業形態や作業環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び、安全管理をする必要があることについて理解している。	○	○	
9		9. 労働災害と健康	働く人の健康の保持増進について理解し、自身の考えを他者に伝えることができる。			
10		10. 健康的な職業生活				
10	健康を支える環境づくり	1. 大気汚染と健康 2. 水質汚濁、土壌汚染と健康 3. 環境と健康にかかわる対策 4. ごみの処理と上下水道の整備	人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすこともあること、それらを防ぐためには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があることについて理解している。 ゴミを適切に処理すること、安全で質のよい水を確保することの意義と仕組みを理解している。 話し合いの場において、自身の考えを他者に伝えることができる。 授業内の活動に対して主体的に取り組んでいる。		○	○
11		5. 食品の安全性 6. 食品衛生にかかわる活動	食品保健活動の意義と仕組みについて理解している。 授業内の活動に対して主体的に取り組んでいる。	○		○
12		7. 保健サービスとその活用 8. 医療サービスとその活用 9. 医療品の制度とその活用 10. さまざまな保健活動や社会的対策 11. 健康に関する環境づくりと社会参加	我が国では、様々な保健サービスがあり活用できることを理解している。 地域の保健・医療機関の活用について理解している。 医療品の正しい使い方が効果と安全性を高めることを理解している。 我が国では健康課題に対応して様々な保健活動や対策などが行われていることについて理解している。	○	○	
1						
2						

教科	科目	単位数	履修学年
芸術	音楽Ⅰ	2	2年3修、3年4修

使用教科書	副教材等
高校生の音楽1（教育芸術社）	なし

<p>科目の目標</p> <p>音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽評価をしながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。</p> <p>(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯に渡り音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。</p>
--

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	<p>曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。</p> <p>創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作などで表している。</p>	期末試験
② 思考・判断・表現	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したこと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。</p>	実技試験及びレポート提出による評価
③ 主体的に学習に取り組む態度	<p>音や音楽、音楽文化と豊に関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	出欠及びレポート 楽器練習への取り組み

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	フォークソングを歌おう	花の街	・声が出ており、積極的に歌うことができる。			○
			・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	
			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。	○		
5	ドイツ歌曲を歌おう	歌の翼に	・声が出ており、積極的に歌うことができる。			○
			・ドイツ語の発音を意識して歌うことができる。	○		
			・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	

6			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。		○	
			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うことができる。			○
7	日本歌曲を歌おう	この道	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。			○
			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。		○	
			・山田耕筰の業績を理解している。	○		
9	ミュージカルに親しもう	ウェストサイドストーリーより〈Tonight〉	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	○
			・ミュージカルとは何か理解している。	○		
			・トニーとマリアを苦しめるアメリカ社会という背景を理解している。	○		
10	音楽が表現するストーリーを思い浮かべよう	交響詩「魔法使いの弟子」	・物語をイメージしながら聞くことができる。		○	○
			・交響詩とは何か理解している。	○		
			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞することができる。	○		○
11	管弦楽と声楽の織り為す壮大な響きを聴こう	交響曲第9番	・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞することができる。	○		
			・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞することができる。		○	
			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞することができる。			○
12			・作曲者の人間像を把握することができる。	○		
			・言語の特徴を注意して歌うことができる。	○		
			・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	
1	言葉と音楽	のぼら	・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。	○		
			・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うことができる。		○	
			・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うことができる。		○	
			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。			○
2	心の歌	ふるさと	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取りイメージを持って歌うことができる。	○	○	
			・曲種に応じた発生の特徴を生かし、表現を工夫して歌うことができる。			○

教科	科目	単位数	履修学年
芸術	美術 I	2	2年3修、3年4修

使用教科書	副教材等
高校生の美術 1 (日本文教出版)	なし

<p>科目の目標</p> <p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
--

評価の観点と評価規準		評価方法
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 	ワークシート 作品制作
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	ワークシート アイデアスケッチ 作品制作
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 美術や美術文化と豊かに関わり表現及び鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。 	授業態度 ワークシート アイデアスケッチ 作品制作

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	オリエンテーション	美術とはなにか 見る 感じとる 考える 表す				○
5	課題 1 絵と文字を使って自己紹介	[絵画、デザイン] 人物を描く ポスターで伝える イラストレーションの魅力	自己や生活を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
			絵画やデザインの効果や表現形式の特性などについて考え、創造的な表現構想を練っている。		○	○
			意図に応じて色鉛筆やマジックなど道具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表わしている。	○		○

6 7	課題2 自分の顔を4段階の明暗で表現する	[絵画、デザイン] 人物を描く ポスターで伝える イラストレーションの魅力 いろいろな絵の具 アクリル絵の具の可能性 色彩	自己や生活を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
			4段階の明暗の効果やその表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じてアクリルガッシュ絵具や絵筆などの材料や道具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
9 10	課題3 立方体に絵を描く	[絵画] 想像を形に	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
			表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて画材を選び、その画材の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
11 12	課題4 四コマ漫画	[絵画] 漫画の表現 日本美術	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
			四コマ漫画の表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて画材の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			四コマ漫画のよさやおもしろさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
			日本の屏風や絵巻物などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の美術の歴史や表現の特質、美術文化について考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
1 2	課題5 清水東に置く彫刻を提案する	[彫刻] 彫刻の魅力 生命感や存在感を表す 抽象彫刻で表す 環境を彩る造形	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
			抽象彫刻の表現形式の特性を生かし、形体や空間などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて材料や用具を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○

教科	科目	単位数	履修学年
芸術	彫刻	2	2年3修、3年、4年

使用教科書	副教材等
美術 表現と技法(日本文教出版)	なし

<p>科目の目標</p> <p>彫刻に関する学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な彫刻に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>(3)彫刻表現の可能性を追求する態度を養う。</p>
--

評価の観点と評価規準	評価方法	
①知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な彫刻の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 	ワークシート 作品制作
②思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、彫刻の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、彫刻や彫刻文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 	ワークシート アイデアスケッチ 作品制作
③主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 彫刻や彫刻文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 	授業態度 ワークシート アイデアスケッチ 作品制作

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5 6 7	オリエンテーション	彫刻の表現 彫刻の材料 彫刻制作にあたって 現代の彫刻	日本及び諸外国の彫刻作品などから美意識や創造性などを感じ取り、日本の彫刻の歴史や表現の特質、それぞれの国の彫刻文化について考え、見方や感じ方を深めている。			○
	課題1 新聞紙で動物をつくる	にわとりをつくる	自然を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
			新聞紙による表現形式の特性を生かし、形体、量感や質感、動勢やマッサなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
			意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○

9	課題2 粘土でデフォルメ化 した自分の顔をつく る	塑造について 塑造から耐久素材へ 頭像をつくる	自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成している。		○	○
10			粘土による表現形式の特性を生かし、形体、量感や質感、動勢やマッサなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
11			意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。	○		○
12			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○
12	課題3 石膏彫刻材を削って 野菜をつくる	手をつくる	自然を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどを基に、課題の目的や条件を考慮して、発想を深めている。		○	○
1			石膏による表現形式の特性を生かし、形体、量感や質感、動勢やマッサなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。		○	○
2			意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。	○		○
			表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表わしている。	○		○
			他生徒の作品のよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		○	○

外国語科 年間指導計画

教科	科目	単位数	履修学年
外国語	英語コミュニケーションⅡ①	2	2年

使用教科書	副教材等
Amity English Communication Ⅱ (開隆堂)	なし

<p>科目の目標</p> <p>外国語(英語)学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、学習指導要領第1款の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の(3)に示す資質・能力を育成する。</p>
--

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習と評価の計画		単元の目標					総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法
時期	単元	主な領域			CE FR	主な領域において何ができるようになるのか	L	R	I	P	W		
		領域	NO	記号									
4	1	L	1	/	A2	日常的话题(沖縄の魅力)について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
5	2	R	1	/	A2	日常的话题(日本食の歴史)について、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、文章の展開や話し手の意図を把握することができる。	知思態	知思態				授・定・他	PT/PFT
6 7	3	I	1	/	A2	日常的话题(高校生のボランティア活動)について、使用される語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝えあうやり取りを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
9 10	4	P	1	/	A2	日常的话题(ガチャガチャ)について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PT/PFT
11 12	5	W	1	/	A2	日常的话题(おもしろ水族館)について、使用される語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落からなる文章で詳しく書いて伝えることができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PT/PFT
1 2	6	L	2	/	A2	社会的な話題(沖縄の魅力)について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT

※評価場面:授(授業内)、定(定期テスト等)、他(課題内容等)

※評価資料:PT(ペーパーテスト等)、PFT(パフォーマンステスト)、PT/PFT(ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト)

備考欄

教科	科目	単位数	学年
外国語	英語コミュニケーションⅠ演習	2	2年3修, 3年, 4年

使用教科書	副教材等
Amity English Communication I (開隆堂)	なし

科目の目標
基礎的・発展的な演習等を通して、「英語コミュニケーションⅠ」の目標・内容に示された資質・能力を育成する。

評価の観点とその趣旨	
知識・技能	・音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深める。 ・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	・コミュニケーションの目的・場面等に応じて情報を整理しつつ考えを形成（思考）する力、考えた内容の伝達の要不要や論理の展開等を、状況に応じて判断する力、そして、思考と判断を経たものを正しい文法に則り要点や意図を明瞭にして表現する力の3つの力を身に付ける事ができる。
主体的に学習に取り組む態度	より自律的な学習につながるよう、「英語コミュニケーションⅠ」で身に付けた資質・能力を、発展的な演習等を通して、より高めることができる。

学習と評価の計画													
時期	単元	単元の目標				主な領域において何ができるようにするのか	総括のための観点別学習状況の評価の記録					評価場面	評価方法
		主な領域			CE FR		L	R	I	P	W		
		CAN-DO	ID	領域									
領域	NO	記号	FR										
4 5					A1	日常的话题（自己紹介、道案内）について、聞いたたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PFT
6 7					A1	日常的话题（デートの約束、英文Eメールの書き方）について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書くことができる。		知思態			知思態	授・定・他	PT
9					A1	社会的な話題（フリーマーケットでの買い物）について、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。		知思態	知思態			授・定・他	PFT
10					A1	社会的な話題（電車等の乗換案内）について、聞いたたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えあうやりとりを続けることができる。	知思態	知思態	知思態			授・定・他	PT/PFT
11 12					A1	社会的な話題（食事のマナー）について、自分の考えを聞いたたり読んだりしたことを基に、自分の考えを理由とともに話して伝えることができる。	知思態	知思態				授・定・他	PT/PFT
1					A1	社会的な話題（日本の文化）について、聞いたたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して話して伝えあうことができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PFT
2					A1	社会的な話題（外国の文化）について、聞いたたり読んだりしたことを基に、意見を論理性に注意して話して伝えあうことができる。	知思態	知思態		知思態		授・定・他	PFT

※評価場面：授（授業内）、定（定期テスト等）、他（課題内容等）

※評価資料：PT（ペーパーテスト等）、PFT（パフォーマンステスト）、PT/PFT（ペーパーテスト等及びパフォーマンステスト）

備考欄

教科	科目	単位数	履修学年
家庭	家庭総合①	2	2年

使用教科書	副教材等
家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)	なし

<p>科目の目標</p> <p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などのことについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート、作品 等
② 思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	定期テスト、ワークシート、実験・実習レポート
③ 主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	ワークシート、レポート、授業への取組状況

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4	生涯の生活設計	<ul style="list-style-type: none"> 人生を展望する 目標を持って生きる 	人の人生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解しているとともに、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。また、生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理ができています。	○		

			生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			○
			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
5	青年期の自立と家族・家庭及び社会	<ul style="list-style-type: none"> ・人生をつくる ・家族・家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会 	生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解しているとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解を深めている。また、家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解しているとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会の関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解を深めている。			○
6			家庭や地域のよりよい生活の創造について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			○
			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、青年期の自立と家族・家庭及び社会について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
7	消費行動と意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集・比較と意思決定 ・購入・支払いのルールと方法 ・消費者の権利と責任 	消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解しているとともに、生活情報の収集・整理ができています。また、消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解しているとともに、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深めています。			○
9			自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			○
			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、消費行動と意思決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
10	生活における経済の計画	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯の経済生活を見通す ・家計をマネジメントする ・これからの経済生活 	家計の構造について理解するとともに、生活における経済と社会との関わりについて理解を深めています。また、生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理ができています。			○
			生涯を見通した生活における経済の管理や計画について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、			○

			実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			
			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
11	衣生活の科学と文化	<ul style="list-style-type: none"> 被服の役割を考える 被服を入手する 被服を管理する 被服を作る 衣生活の文化と知恵 これからの衣生活 	衣生活を取り巻く課題、日本と世界の衣文化など、被服と人との関わりについて理解を深めている。また、ライフステージの特徴や課題に着目し、身体特性と被服の機能及び着装について理解しているとともに、健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画、管理に必要な情報の収集・整理ができています。さらに、被服材料、被服構成、被服製作、被服衛生及び被服管理について科学的に理解し、衣生活の自立に必要な技能を身に付けている。	○		
			主体的に衣生活を営むことができるよう目的や個性に応じた健康で快適、機能的な着装や日本の衣文化の継承や創について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
12			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○
1						
	食生活の科学と文化	<ul style="list-style-type: none"> 食生活の課題について考える 食事と栄養・食品 食品の選択と安全 生涯の健康を見通した食事計画 調理の基礎 食生活の文化と知恵 これからの食生活 	食生活を取り巻く課題、食の安全と衛生、日本と世界の食文化など、食と人との関わりについて理解している。また、ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解しているとともに、自己や家族との食生活の計画・管理に必要な技能を身に付けている。さらに、おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品の衛生について科学的に理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。	○		
			健康及び環境に配慮した自己と家族の食事、日本の食文化の継承・創造について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。		○	
2			様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活の科学と文化について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			○

教科	科目	単位数	履修学年
情報	情報 I	2	2年

使用教科書	副教材等
最新情報 I (実教出版)	なし

<p>科目の目標</p> <p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <p>(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。</p>

評価の観点と評価規準		評価方法
① 知識・技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。	テストおよび、実習課題等
② 思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	テストおよび、実習課題等
③ 主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	授業への取り組み、テスト、実習課題等

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの評価規準	評価の観点		
				①	②	③
4 5	第1章 情報社会と私たち	1節 情報社会	情報化社会の現状・情報の特性・情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解している。 知的財産権および、他人や自分の著作物を適切に利用し公開する方法を理解し、個人情報とプライバシーを保護する方法を身に付け、様々な情報技術について理解している。	○	○	
		2節 情報社会の法規と権利				
		3節 情報技術が築く新しい社会				
6 7	第2章 メディアと情報デザイン	1節 メディアとコミュニケーション	メディアの種類と特性を理解し、これをコミュニケーションに生かす能力を身に付けている。 様々な情報を効果的かつ分かりやすく伝えるための情報デザインの知識を理解している。	○	○	○
		2節 情報デザイン				
		3節 情報デザインの実践				
9	第3章 システムとデジタル化	1節 情報システムの構成	コンピュータの構成やソフトウェアについて理解し、アナログ表現・デジタル表現についての知識・技能を身に付けている。	○	○	
		2節 情報のデジタル化				

10	第4章 ネットワークとセキュリティ	1節 情報通信ネットワーク	ネットワークの構成やWeb ページ・メールの仕組みを理解し、それを効率的に使用方法や使用に伴う危険性や対処法について考えている。	○	○	
		2節 情報セキュリティ				
11 12	第5章 問題解決とその方法	1節 問題解決	様々な問題を解決するための方法や、必要なソフトウェアの知識および仕組みを理解し、シミュレーションを経て効果的に表現する能力が身についている。	○	○	○
		2節 データの活用				
		3節 モデル化				
		4節 シミュレーション				
1 2	第6章 アルゴリズムとプログラミング	1節 プログラミングの方法	アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによって、コンピュータや情報通信ネットを活用する方法について理解している。 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、その過程を評価し改善することができる。	○		○
		2節 プログラミングの実践				